

令和3年1月29日実施

「withコロナに生きる子どもたちに求められるコミュニケーション力とは」の様子

講師：福地 朋子さん (wmoon 合同会社代表)



♪こんなことをお話いただきました♪

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、常識が変わり時代が変わりました。ソーシャルディスタンスをとること、マスク着用、アルコール消毒が必要とされ、大人の世界でもWEBを通しての会議、面接、飲み会、テレワークが広まり、子どももオン

ラインで授業を受ける場面が多くなってきました。こうした時代に子どもたちが身につけるべき「生きる力」とはどんなものでしょうか？保護者がどういう姿勢で子どもを育てていけばよいのでしょうか？

【子どもたちをとりまくデジタル空間】

★オンライン授業、入試のGBT化、オンデマンド学習、プログラミングの必修化からわかるように子どもたちのデジタル能力の育成はこれからどんどん大事になります。キーボード操作に始まり検索能力などデジタル活用能力がこれからの時代を生き抜くには欠かせません。コロナ禍がこうした傾向に拍車をかけている、ともいえます。デジタル機器は水道と同じくインフラといえるくらいの存在です。そして今の子どもたちはオンラインゲームで友だちと遊んだりつながりを作ることからわかるように、生まれたときからサイバー（デジタル）空間とフィジカル空間が融合する世界で生きています。

【これからの子どもたちに必要とされる「生きる力」とは】

★新学習指導要領でもうたわれているように「勉強」より「学び」が大切となっていきます。「主体的」で「対話的」に学びを深め、「自己調整力」＝「しなやかに生きる力を育てる」ことがクローズアップされています。「もっと勉強しなさい」と根性論をおしつけるのではなく、子どもの興味関心に関連させて、学習を進める、楽しみながら学び、成功体験を高め動機付けとする、そして子どものメタ認知力（自分が今どの位置にいるのかを俯瞰する力）に磨きをかけることなど、従来と違う方法で学習をすすめることにより、学ぶ力、真の生きる力が身につけていきます。また、回復力「レジリエンス」もこれからは大切だとされています。困難や逆境にあっても状況に合わせて柔軟に生き延びようとする力です。

【子どもとどう向かい合えばよいのか】

- ★子どもと目的を共有できているでしょうか。子どもと同じ山の頂上を目指すことができているでしょうか。どう登っていくかは子どもの個性によります。まわりをぐるぐるまわりながらゆっくりのぼる子もいれば、きつなくてもまっすぐ最短距離でトライしようという子もいます。子どもが何を考えているのか、よく子どもと対話して思いを共有しましょう。
- ★よいコミュニケーションには心の余裕をもって聴くことが欠かせません。おや？と思ってもすぐに否定せずに一旦聴きましょう。わたしたちは日本の伝統的な教育の影響で答えをひとつだと潜在的に思い込んでいますが、実は「正解」は1つではないのです。正解ではなく「最適解」

を子どもといっしょに考え、トライ&エラーで進みましょう。会話の積み重ねが子どもに気づきを与え明るい未来につながります。

★一方的な意見の押しつけはコミュニケーション（対話）ではありません。自分の言いたいタイミングで自分の言いたいように言うと、相手はそれを、押しつけに感じてしまいます。相手が「聞こう」「答えよう」と思えるコミュニケーションを相手の望むタイミングを選び、言葉も選んで伝えることに努めましょう。

★才能がない子どもはいません。わが子の興味を示すこと、得意なことをどんどん伸ばしてあげましょう。子どもの得意なことでコミュニケーションをとると、本人の自信が深まり、自己肯定感が高まります。

☆従来はここで料理教室となりますが新型コロナウイルス感染症対策のため料理（メニュー：『パッパとガッツリ家中華』黄金色に輝くヘルシー押し麦チャーハン、miso de ギョーザ）のデモのみとなりました。最後は福地先生への質疑応答があり和やかな雰囲気、皆さんと交流できました！

